

2016年元旦の新聞

毎年、正月元旦の新聞が楽しみだ。購読している新聞のほかに、コンビニなどで買ってくる。翌日が休刊日なので、2日かけてじっくり読む。ボリューム一杯だが、広告が多く、実際に読む紙面はそれほど多くない。写真は5紙の1面である。新聞各紙の特徴が出ているが、より明確にあらわれるのは社説であろう。各紙とも「1本」社説である。

社説のタイトルを紹介しておこう。

- ・読売—世界の安定へ重い日本の責務 成長戦略を一層強力に進めたい
- ・朝日—分断される世界 連帯の再生に向き合う年
- ・日経—日本経済 生き残りの条件 新たな時代の「追いつき追い越せ」へ
- ・毎日—2016年を考える 民主主義 多様なほど強くなれる
- ・中日—一年のはじめに考える 歴史の教訓を胸に



元旦の記事のなかで、いちばん注目した記事は、毎日の「改憲へ緊急事態条項 議員特例 安倍政権方針」である。

1面リードから—安倍政権は、大規模災害を想定した「緊急事態条項」の追加を憲法改正の出発点にする方針を固めた。特に衆院選が災害と重なった場合、国会に議員の「空白」が生じるため、特例で任期延長を認める必要があると判断した。与野党を超えて合意を得やすいという期待もある。安倍晋三首相は今年夏の参院選の結果、参院で改憲勢力の議席が3分の2を超えることを前提に、2018年9月までの任期中に改憲の実現を目指す。

2面では、透ける「お試し改憲」として、次のように指摘する。安倍晋三首相は、今年夏の参院選後、憲法改正論議を活発化させたい考えだ。野党でも「おおさかい維新の会」が改憲で首相に協力する方針を鮮明にしており、首相側には「緊急事態条項」の追加なら各党の支持を得やすいという読みがある。ただ、安倍政権の「現実路線」の背後には、これを突破口にして9条などの本丸に切り込む「お試し改憲」(首相周辺)の意図も見え隠れするだけに、与野党が早期に合意するめどは立っていない。

新年早々、「アベ政治」とりわけ改憲の動きから目が離せない。



(2016年1月2日)